

## 成果発表公演に向け 熱く 熱く

平成26年3月8日に開校した子どもオペラ学校。38名の子どもたちが7月26日(土)の成果発表公演《ヘンゼルとグレーテル》に向け、熱心に稽古を続けています。

衣裳合わせも済み、本番に向けた第2回目となる1泊2日の宿泊学習も終了しました。稽古も佳境に入り、指揮者から「自分はどんな役なのかイメージを膨らませ、自分ではない人物・物体・妖精などに変身し、精いっぱい歌い、踊り、演技して会場の皆さま全員に思いを届けましょう」と指導がありました。子どもたちもそれに応えようと真剣です。稽古後には「もっと歌がうまくなりたい」とか「魔物の役は難しいし、衣裳は重くて暑苦しいけど頑張る」など積極的な声が聞かれました。

公演では、子どもたち一人ひとりの役にこめた思いや工夫がキラリと輝き、熱い思いも伝わることでしょう。そして、美しい合唱の響きに感動を覚え、見事な群舞にも驚かれることでしょう。是非ともご鑑賞ください。

## Information

### 第7回子どもオペラ学校成果発表公演 オペラ《ヘンゼルとグレーテル》

日 時：平成26年7月26日(土) 14:00開演  
会 場：日立シビックセンター音楽ホール  
指 揮：大浦智弘  
出 演：第7回子どもオペラ学校生徒38名  
演 奏：ひたちオペラアンサンブル  
チケット：子どもオペラ応援チケット500円(全席自由) 発売中

### 第19回ニューイヤーオペラコンサート

日 時：平成27年1月11日(日) 14:00開演  
会 場：日立シビックセンター音楽ホール  
音楽監督/指揮：大浦智弘  
舞台進行：古川真紀  
出 演：小川里美、岡部恵美子、大津香津子、川久保博史、高橋正典、小仲井宏美(舞踊)  
合 唱：野外オペラ《マクベス》合唱団  
演 奏：ニューイヤーオペラアンサンブル  
チケット：一般2,000円、高校生以下1,000円  
※平成26年10月4日(土) 発売

開演5分前



# 「ひたちオペラ市民」が新しくなりました！ オペラネットひたち OPERA NET HITACHI

発行/ひたち市民オペラによるまちづくりの会、公益財団法人日立市科学文化情報財団  
〒317-0073 茨城県日立市幸町1-21-1(日立シビックセンター) ☎0294-24-7755

2014.7 Vol.2

## 平成26年度ひたち市民オペラによるまちづくりの会総会を終えて

青葉若葉がその色を濃くし、葉の数を増やしてきた平成26年5月13日(火)日立シビックセンター会議室に於いて、平成26年度ひたち市民オペラによるまちづくりの会総会が開催されました。

平成25年度事業報告として、広報紙のリニューアル、臼井英男先生によるオペラレクチャーコンサート、「ひたちオペラ団」によるオペラ《ヘンゼルとグレーテル》ミニコンサート・子どもオペラワークショップ、第18回ニューイヤーオペラコンサート、そして第7回子どもオペラ学校開校について、映像を通して報告がなされました。

また、平成26年度事業計画として、平成27年8月に野外オペラ公演を予定していること、野外オペラの演目はヴェルディ作曲《マクベス》に決定したこと、そしてそれに向けてオペラ制作講座、ワークショップ、コンサートなどといった様々なイベントを計画していることが発表されました。オペラ制作講座や道具製作・衣裳製作・舞台美術各ワークショップなど、すべてのイベントが野外オペラ公演につながっていきます。「いよいよ動き出すぞ！」という思いが一人ひとりの心に刻まれました。

本総会によって、野外オペラ公演というひとつの大きな目標が掲げられました。組織改編後、各まちづくり実践チームも活動を始めています。演奏する者も、それをサポートする者も、一人ひとりに大切な役割があります。各々がそれを自覚し、誇りを持つことで、会全体が活性化していきます。目標に向かって、今、何をなすべきかを考えていきましょう。これまで培ってきたオペラ制作のノウハウを最大限に生かし、再びこのまちの人々の心を動かし、深い感動を呼び起こしていきましょう。そうした熱い思いこそが、「まちづくり」につながるのではないのでしょうか。

## オペラなるほど②

## ヴェルディとシェイクスピア

オペラ題材の多くに男女の「愛」が選ばれた時代、おどろおどろしい心理劇の《マクベス》には愛の喜びを歌う場面はありません。ヴェルディは当時のイタリア人としては珍しく、若い頃からシェイクスピア作品に傾倒していました。ヴェルディを惹きつけたのは、シェイクスピアが描く理性と感情、善悪、賢愚などが表裏一体の、奥深い「人間の心」でした。ヴェルディ以前のオペラは歌手の技巧を魅せる部分が強く、脚本がもつドラマは軽視されがちでしたが、ヴェルディはオペラの登場人物を生きた人間として描きたいと強く望んでいたのです。うってつけの題材を選んだヴェルディは、シェイクスピアの人物を表現するのに適した手法を編み出して音楽にしようと挑戦しました。

### 編集後記

新体制になって2回目の「オペラネットひたち」をお届けします。「ひたち市民オペラによるまちづくりの会」が平成27年8月に公演予定の野外オペラ《マクベス》に向けて、計画内容の具体化を推進中です。組織のタテ・ヨコを強め関係者全員で取り組み、盛り上げを図りたい。そして、「おもてなしの心」でひたちのまちを元気にしたいものです。(N)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください

〒317-0073 茨城県日立市幸町1-21-1 日立シビックセンター  
「ひたち市民オペラによるまちづくりの会」事務局まで Tel 0294-24-7755 Fax 0294-24-7979



## 公演概要

公演名 日立シビックセンター開館25周年記念事業  
ひたち野外オペラ第4回公演 オペラ《マクベス》

日時 平成27年8月22日(土) 18:00開演予定

会場 日立シビックセンター新都市広場

総合プロデューサー/原田実能、指揮/大浦智弘、演出/古川真紀

### ソリスト決定!

マクベス/高橋正典、マクベス夫人/小川里美、バンクォー/田中大揮、マクダフ/川久保博史、マルコム/吉田連、マクベス夫人の侍女/大津香津子、医師/清水良一

※出演者のプロフィールについては、日立シビックセンターホームページをご覧ください。

舞台を支える専門家スタッフも随時決定していきます。

また、公演スタッフ、児童合唱、舞踊、俳優の募集を今後予定しておりますので、詳しくは、日立シビックセンターまでお問い合わせください。

## オペラ《マクベス》のあらすじ

スコットランドの荒野でマクベスとバンクォーの前に魔女たちが現れ、奇妙な予言—マクベスは「コーダーの領主となり、さらにスコットランドの王となる」。バンクォーは「いずれ王の父になる」—を告げます。その予言通りマクベスがコーダー領主に任命されると、それを知ったマクベス夫人はすっかり野心の虜となり、尻込みする夫を叱咤して国王暗殺に踏み切らせます。

そうして王となったマクベスは、今度はバンクォーの予言(王の父になる)が王座を脅かすのではないかと気になって仕方ありません。夫婦でバンクォー父子暗殺を企てますが、バンクォーは自らを犠牲に息子を逃がします。その知らせを王就任の祝宴で聞いたマクベスは、宴席に死んだはずのバンクォーの幻を見て恐怖に取り乱し、そんなマクベスを見た人々は、マクベス夫妻の悪事を察知して場に不安が立ち込めるのです。

不安に駆られるマクベスが魔女たちの下を訪れ新たな予言を求めると、釜の前に現れた幻影にこう言われました。「マクダフ(貴族)に用心せよ」、「残虐になれ、女から生み落とされたものに打ち負かされることはない」、「バーナムの森が動かぬ限り敗れることはない」。

マクベス夫妻は予言を信じ、バンクォーの息子とマクダフを一族もろとも滅ぼそうと心に決めますが、マクベスに不信感を抱くマクダフはすでに亡命後、彼の妻子だけが手にかかります。マクベスから逃れた亡命者が集う国境近くの荒野に妻子の悲劇を知って悲しみに暮れるマクダフもいました。そこに前王の息子、マルコムが兵を率いて現れ、荒野の人々を取り込み、反乱軍はバーナムの森の木を手にかざして進軍を始めます。

一方城中では、マクベス夫人が自分の手についた落ちない血痕の幻影に苛まれて狂死します。「バーナムの森が動いている」と報告されたマクベスは、城内に攻め入ったマクダフと対峙し、マクダフが自然分娩ではなく帝王切開で生まれた(生まれ落ちたのではなく、腹を裂いて出てきた)者であることを知って戦意を失い、たやすく敗れます。戦いに勝利した人々は、英雄となったマクダフと新国王マルコムを称え、取り戻した祖国スコットランドを想い歓喜に湧きます。

## オペラ制作講座 はじまる

平成26年5月19日より、オペラ制作講座(以下、制作講座)が始まりました。指揮者の大浦智弘氏、演出家の古川真紀氏を講師に迎え、14名が受講しています。ここでは、オペラ制作のノウハウを学び、また参加者同士でも意見を述べ合っていきます。

来る平成27年8月のひたち野外オペラの演目として、ヴェルディ作曲《マクベス》が取り上げられました。制作講座第1回では、「演目選定にあたっての経緯~なぜ《マクベス》か」というテーマに基づき、講師より解説が行われました。映像を交えながら、なぜ野外で、なぜ日立の地で《マクベス》を上演するのかについて、約2時間に及ぶ解説と議論が交わされました。

### —なぜ《マクベス》を選んだのか？

はじめて日立の街に来た時から、野外オペラができる日を待ち望んでいました。日立駅を降りて、あの新都市広場のステージを見たとき、イメージが膨らみました。まず目に留まったのは、ステージ上にある「壁」。あれが中世の世界を彷彿とさせます。今回のひたち野外オペラでは、これまでの軌跡とノウハウを基に、ヴェルディの「総合芸術」への理念を、出演者・スタッフが共感し合って追求するとともに、日立ならではの、ここでしかできないオペラのかたちを打ち立てたいと思っています。



指揮者 大浦智弘氏

### —演目選定にあたっての観点と経緯

- 1) 新都市広場を生かせる規模であること。
- 2) 野外オペラとして屋外で上演できる設定であること。
- 3) 市民を中心としたオーケストラ、合唱団、児童合唱団、俳優エキストラが活躍できること。
- 4) これまで日立シビックセンター音楽ホールプロジェクトに携わってこられた方々が活躍できること。
- 5) 比較的知られたオペラ作品であること。

他の候補として、レオンカヴァッロの《道化師》や、ウェーバーの《魔弾の射手》も考えましたが、人間的・時間的・環境的観点から、ヴェルディの《マクベス》が上記の観点を満たす最も相応しいものとして選ばれました。特に、新都市広場の石造りの柱や壁が、オペラの舞台である中世スコットランドの城を想起させてくれます。

### —最大のテーマは「再生の物語」

《マクベス》は、主人公の弱き心、人間そのものの弱さを描いています。一見すると悲劇のようですが、これをオペラ上演する際には、単なる悲劇に終わるのではなく、明日に向かって続くものにしていきたいと考えています。奇しくも、東日本大震災で私たちは非常に大変な経験をしました。そこでは生活の様々なツールが途絶え、「人間の本当の強さとは？」ということが問われました。オペラ《マクベス》では、表面的な血生臭さではなく、作品の本質を見つめ、「再生に至るまでの人間の働き」を表現していきたいと考えております。



演出家 古川真紀氏

またこの他、「バーナムの森をどのように動かすか？」という演出上の課題も出され、参加者は皆、頭を捻らせながら楽しく講座に取り組んでいます。もしかしたら今回のオペラのいちばんの見どころになるかもしれませんね。

この制作講座は平成26年8月29日までの間に、全7回の講座が予定されています。



ひたち野外オペラ第3回公演 オペラ《アイーダ》より